

研究エッセイ

ESSAY

## 中国調査 中間レポート

鈴木 陽一（神奈川大学大学院外国語学研究科・教授）

去る10月、筆者は河南省開封市、江蘇省南京市、上海市を回り、第一班のテーマである「図像資料」の各地の収蔵状況などについて予備調査を行った。以下はその報告である。

### 1 河南省開封市

今回調査したのは山西・陝西・甘肅三省の商人たちが共同で建立し、関羽を祀った会館で、規模は意外に大きく、その木彫、石彫は精緻を極めている。特に木彫は彩色が施されている上に、通常の小説、戯曲をテーマにしたものではないものと思われ、大いに注目されたが、よく見ると、服装が清朝のものではなく、「清明上河図」を下敷きにした可能性も含めて他の資料と照らし合わせ、詳細な検討が必要である。なお、開封市では河南大学の中文系、民俗学の諸先生の協力を受け、貴重な資料の恵投を受けたことを付記しておく。

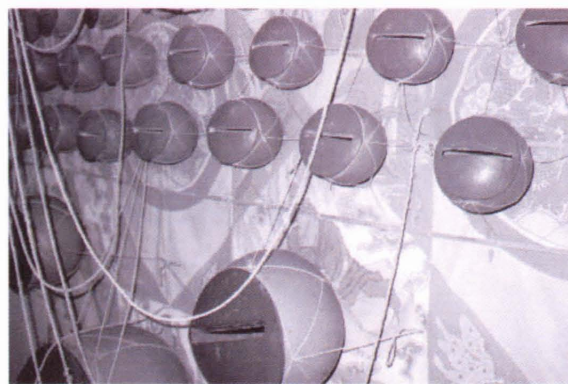


河南省開封市山陝甘會館の木彫

### 2 江蘇省南京市

今年の7月東京で開かれたシンポジウムで、偶然南京博物院民俗民族研究所所長徐藝乙氏と知り合い、今回同博物院を訪問し、収蔵資料を見学することができた。残念ながら、同博物院は設立七十周年にあたり、記念式典の前日の見学となったため、式典のリハーサルを横目で見ながらの慌ただしいものとなった。しかし、民俗関係の

展示は充実しており、1930年代に収集された貴重な資料の中には、ナシ族のトンバ教の経典や、ホジェン族のシャーマンが利用した祭祀用具なども含まれ、今後共同調査研究によって、我々が求めるような資料の発見も可能ではないかと思わせた。しかも多くの資料については、いまだに目録も整備されていないとのことなので、本博物院の資料については年末に再度調査を行い、そこで明年以降の調査、研究の方向付けをしたいと考えている。なお、写真は館蔵の山東の大風で、高さは3m余り。布地に『水滸伝』の英雄たちの姿が描かれ、巨大なウナリが数多く付けられている。



南京博物院所蔵 山東省の大風

### 3 上海

本学卒業生沈麗雲女史が上海図書館に勤務していることを知り、館蔵資料の調査に協力をお願いしたところ、女史は快諾され、今後の共同研究について話し合いを行った。今回は担当副館長が出張のため、残念ながら直接資料を見ることができなかったが、館蔵民間版画集の恵投を受け、COEの資料に加えることができた。これらの資料の大半は戦前に収集されたものであるが、調査研究は一部の作品のみに対して行われているにすぎない。民間版画の収蔵点数は一万点とも、数千点とも言われており、年末に再調査を行い、明年以降中国側と協力のうえ目録の作成を目指したいと考えている。